

令和4年度 市川町 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：2名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - ・認知症啓発
 - ・認知症個別相談対応
 - ・認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク構築
 - ・認知症対応力向上のための支援
（認知症カフェ、家族会、サポーター養成講座）
 - ・相談支援体制構築（認知症初期集中支援事業他）

報告者氏名： 岡本 舞

市川町 認知症施策全体図

○認知症対策の推進

◎施策の展開方向

①普及・啓発活動の推進…一般住民をはじめ認知症の正しい知識の普及啓発

②相談体制の充実…本人の状態に応じた適切な支援を行えるような体制整備

③認知症支援サービスの充実

- ・介護者への支援…家族会を開催し情報交換を行い、日頃の悩みや不安を解消
- ・認知症高齢者等の見守り・SOSネットワークの構築…行方不明になる可能性のある方に事前登録して、日頃から地域で見守り、行方不明になった際にすみやかに発見活動を開始
- ・ボランティアの育成…認知症サポーター養成講座の実施、やすらぎボランティアを派遣し、家族の介護疲れをやわらげる一助として支援

④認知症の予防対策の推進

- ・認知症予防を目的としたプログラムの推進…予防を目的にしたプログラムの導入を検討し、認知症を推進行させない工夫を図る
- ・認知症地域支援推進員の配置…地域の支援機関をつなぐ連携支援や認知症の人やその家族を支援する相談業務を行う
- ・認知症初期集中支援チームの設置…認知症の人やその家族に早期に関わるチームを配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制の構築

認知症の正しい理解を広めるための普及啓発について

○事業概要

- ・市川町では各地区、地域主体で民生委員、ボランティアなどを中心に月に一回つどいの場がある。そこでは茶話会、レクレーションなどが行われており、その場で例年要望があった地域に認知症の正しい理解を広めるための普及啓発を行っている。

○令和4年度の啓発

- ・コロナ禍であったため、つどいの場所の開催をしている地域が限られ6回実施し、81名の方に啓発を行った。
- ・啓発内容としては県の認知症チェックシートやパンフレットを用いて行っている。チェックシートを地域の方に行っていたいただき、日頃の様子を自身で把握していただき、認知症の症状もお伝えしている。また、認知症予防の方法の一つとして、つどいの場が『社会参加』としてある事を伝え、会の参加を継続してもらうよう促している。
- ・また、誰もがなりえる病気で、病気を理解する事も支援に繋がる事をお伝えしている。病気になり別の人格になるわけではなく、傷つく・楽しい・嬉しいなど感情も変わらなくある事をお伝えしている。

• 最後に・・・

啓発活動は毎年行っているが、担当になった当初はつどいの場で比較のお若い方に「認知症はまだ関係のないことかな」と言われる事があったが、近年、メディア等で認知症についての報道も多々され、住民さんの方から教えていただく事があり、認知度・関心度も高くなっていると感じている。

市川町は高齢化率も高く、支援者だけでは支援する事も限られてくる。そのためにも、地域の方の支援の協力が必要になってくる。今年度は地域の方に対して認知症サポーター養成講座をしばらくできていなかったため開催予定でいる。つどいの場だけの対象者の方だけでなく、幅広い年齢層の方の支援者が必要と考える。地域の皆さんの協力が大切な資源の一つであるため、お互いに支え合える地域づくりを目指したい。